

# 29年度一般会計予算

## 賛否討論

※要約しています。

### 賛成

至誠会 水野久子 議員

29年度一般会計予算は、総額145億9300万円、前年度当初予算と比較して100万円増で、ほぼ同額である。人口が伸び悩む現況化にあつては、まずまずの予算規模と評価する。  
歳入は、減額が多い中、寄附金のふるさと納税の人氣が衰えず倍額見込みとなるなど、他の歳入でカバーすることで、前年度並みである。

歳出では、介護予防・日常生活支援総合事業、町地域支えあいセンター（仮称）事業、コミュニティソーシャルワーカー配置事業、フレイルチェック事業、ひとり親家庭等支援事業、学生ボランティア事業、天白遺跡発掘調査事業、展示品作成事業、（仮称）役場東防災倉庫整備事業、於大公園再整備事業、三丁公園整備事業、JR武豊線緒川駅バリア解消工事補助事業など、住民福祉を念頭に様々な分野で多くの新規事業が予算化されている。また、継続する施策や事業も、より充実した内容になっていると判断し、本予算を評価して、賛成討論とする。

### 賛成

公明党東浦 秋葉富士子 議員

29年度一般会計予算総額は、145億9300万円の前年度比100万円の増、町税は0・9%減で、足踏み状態の続く経済の影響の見込みがうかがえる。

予算には、「第5次総合計画」の5つの施策が盛り込まれており、事業としては第6次総合計画策定事業、JR武豊線緒川駅バリア解消工事補助事業、道路改良事業、三丁公園整備事業、（仮称）役場東防災倉庫整備事業などがある。また、公明党東浦が提案、推進をしたコミュニティソーシャルワーカー配置事業、ヘルプカード事業、介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）、ひとり親家庭等支援事業、天白遺跡発掘事業などが予算化され、評価する。

住民の安全安心な暮らしを維持し、高齢化に対応しつつ、多世代の住民に配慮した施策とともに、若い世代が住みたい、住み続けたいと思えるような子育て支援、雇用創出を図る施策、少子高齢化を乗り切るための住民力向上を目指す施策の展開を期待して、賛成討論とする。

### 賛成

無所属 成瀬多可子 議員

全体として、28年度とほぼ同額同規模で、メリハリの利いた予算編成となっている。

歳入は、税収見込みが厳しく、起債、基金繰り入れもあるが、一方で普通債、臨時財政対策債を含むその他の地方債は償還も順調になされる見込みで、財政状況は維持されると判断できる。国の交付金等も積極的に活用するよう、今後とも情報収集に努めることを望む。

歳出は、ハード面ソフト面のバランスがとれた予算配分となっている。新しい取り組みの中では、ひとり親家庭等支援事業、地域支えあいセンター（仮称）事業などがあるが、わかりやすいハード整備の事業と違い、成果が見えてくるまで一定の時間が必要なので、ブレずに目指す町の姿に向かって進めてほしい。  
また、第6次総合計画策定を2年前倒しする目的は、高齢化、人口減少社会に対応したまちづくりの指針が必要であることで、同意する。町民による町民のための総合計画となるよう注視していく。

### 反対

日本共産党東浦町会議員団 平林良一 議員

石浜工業団地は所有企業に対して用地の活用を強く働きかけるべきである。

町職員の構成は正規が394人、再任用が18人、それに対して非常勤が476人で全体の53%となっている。正規職員の定員も抑えているため、時間外労働が常態化している。また、非常勤職員の最低賃金は時給870円で、千円に引き上げを求める。

第6次総合計画を2年前倒しで策定することになっているが、いまや激動の時代であり、短期間で対応する実施計画で十分ではないか。

要支援の高齢者を介護保険のサービスから外し、地域で支援する総合事業が始まる。安あがりでも悪い介護予防支援になりかねない。緒川新田土地区画整理事業に反対者が多い中、無理に進めるよりも名古屋半田線の道路用地買収を県に働きかけるべきである。於大公園の再整備計画の基本設計では、プール存続も検討すべきである。

以上の理由から、反対討論とする。